

第9回: 南北貿易と経済発展 —先進国と途上国の貿易—

担当者: 佐々木 啓明*

2010年6月29日

*京都大学経済学研究科. E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp

—南北貿易—

南北貿易とは、途上国である南と先進国である北との貿易。

1. 北と南の経済構造・制度は異なる(両国の非対称性を考慮する)。
2. 北は工業製品を輸出し、南は一次産品を輸出する。

サールウォール法則を導出する際、交易条件は一定であると仮定した。しかし、一次産品の工業製品に対する交易条件は悪化しているという「プレビッシュ=シンガー仮説」がある。

—基本設定—

1. 南は労働と資本を用いて財を生産する.
2. 南で資本を作ることはできず, 北から輸入する.
3. 北は労働と資本と原料を用いて財を生産する.
4. 北で原料を作ることはできず, 南から輸入する.
5. 両国において, 賃金はすべて消費される.
6. 両国において, 利潤はすべて貯蓄される.

—カルドア型の南北モデル—

先ほどの基本設定に加えて

「両国の実質賃金は一定水準に固定され、両国の経済は競争的である」と仮定する.

南で実質賃金が一定となる理由:

北で実質賃金が一定となる理由:

そして、一定の実質賃金水準で労働を必要なだけ雇用できると仮定する.

南の製品価格を P_1 , 北の製品価格を P_2 として, 交易条件を $P = P_2/P_1$ と定義する.

このとき, 両国の成長率を次のように表すことができる.

$$g_1 = F(P), \quad (1)$$

$$g_2 = G(P). \quad (2)$$

なぜか?

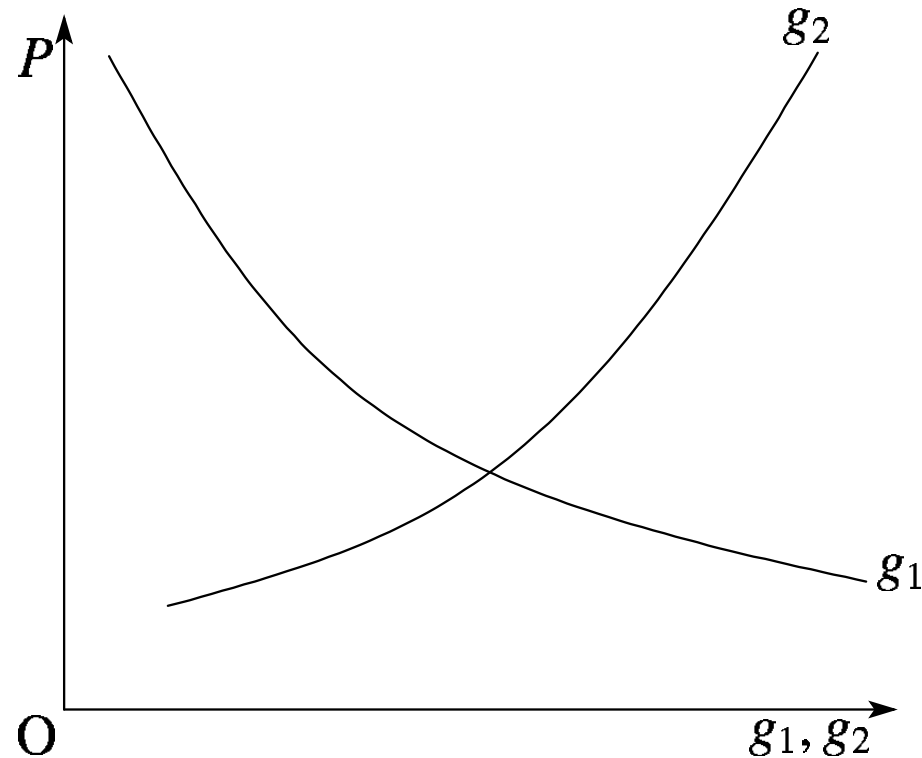


Figure 1: カルドア型の南北モデルにおける成長率と交易条件の決定

1. 北で原料節約的な技術進歩が起きるとどうなるか.
2. 南で労働節約的な技術進歩が起きるとどうなるか.

—カレツキ型の南北モデル—

先ほどの基本設定に加えて

「南の実質賃金は一定水準に固定され、南の経済は競争的であるが、北の経済はカレツキ型である」

と仮定する.

北がカレツキ型であるということは、

1. マークアップ・プライシング → 輸入原料を考慮する必要
2. 数量調整が働く → 稼働率が内生変数
3. 投資関数の存在 → $g_2^i = \alpha + \beta r_2$

このとき、両国の成長率を次のように表すことができる。

$$g_1 = F(\bar{P}), \quad (3)$$

$$g_2 = \frac{\alpha}{1 - \beta}. \quad (4)$$

なぜか？

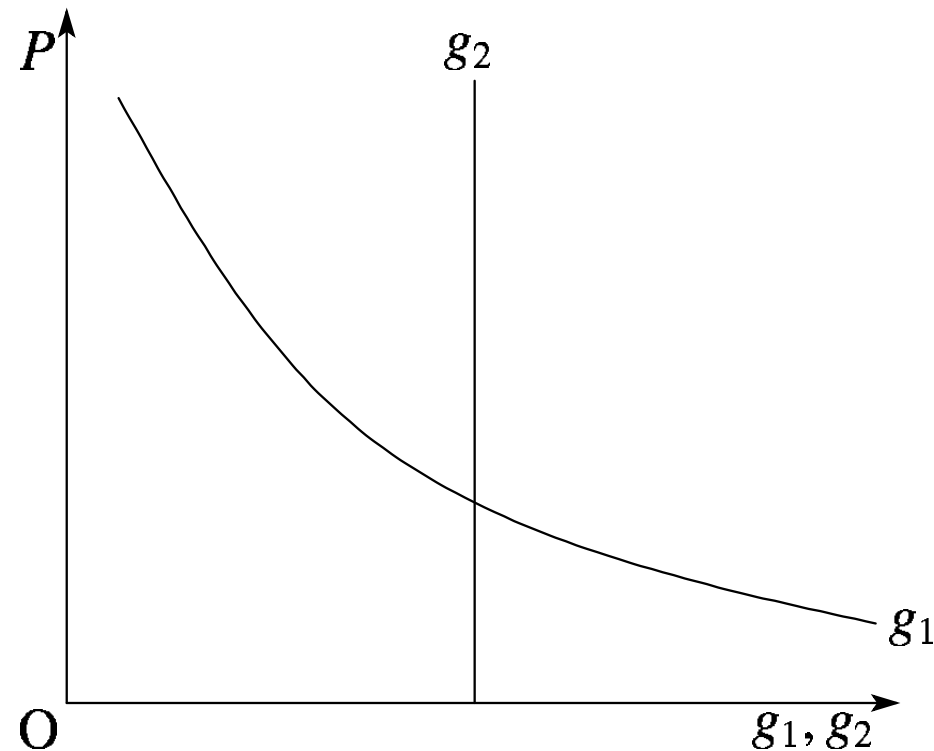


Figure 2: カレッツキ型の南北モデルにおける成長率と交易条件の決定

1. 北で原料節約的な技術進歩が起きるとどうなるか.
2. 南で労働節約的な技術進歩が起きるとどうなるか.